

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2018年 新年号 1月10日発行 通巻67号
 発行人 梅沢 みどり (府中市紅葉丘)
 TEL 042-351-0689
 編集人 葛西 利武

大人も子どもも
共に学び合おう！

第五小学校3年生の「総合学習」授業へ講師派遣

平成29年10月5日(木)午前午後、府中市立府中第五小学校 3年生3クラス計104名の総合学習授業に講師等10人のスタッフを派遣した。西府崖線保全活動チームの7年間の活動経験を活かし、最初に教室でハケ(崖線)や湧水、樹木の説明を行い、その後西府崖線を実際に歩いて学ぶ90分授業だった。なお、講師派遣は今回で3回目である。



DVDを使用した授業風景
 竹内 章講師(中央)
 3年2組担任松本誠先生(左)

西府崖線の自然と景観を後世に伝え残すため、西府崖線保全活動チームは、地域の子どもたちには毎年「わき水まつり」の生き物探検隊などで用水の生き物に接する機会をつくってきた。その他に年2回の一斉清掃活動、樹木マップ作り、野鳥観察会、湧水量調査などほぼ毎月活動している。継続した地域活動情報が第五小学校学校長に届き、今回の初講師派遣に繋がった。3学年担任の先生方と3回の打ち合わせや実踏を行ない、当日を迎えた。



あずまや前での昆虫の野外授業
 高家博成講師(右端)

最初に児童たちは各教室で20分間の授業(担当 竹内 章/相談役)をうけた。ハケの成り立ち、なぜ湧水があるのか、常緑樹と落葉樹の違い、身近な動植物(キセキレイ、ハグロトンボ、キツネノカミソリなど)について、崖線で実際に撮った映像を交えながら説明を行った。

その後児童たちは校舎の西門に画板を持って集合。高家博成農学博士(虫博士)の紹介をし、1クラス3グループに分かれて、案内講師と見守りスタッフで「崖線歩き」に出発。

コースは①御嶽塚古墳②湧水③あずまや④カッパ池の4ヶ所。古墳上に登って「ネムノキ(右上のイラスト等)」からぶら下がる種を振ってシャリシャリと音を楽しんだり、年間を通して水温約17℃(当日外気温は23℃)の湧水に手を浸けたり、「あずまや」ではイロハモミジの紅葉メカニズムの話に聞

き入った。付近にいるアオバハゴロモの名の由来、アメンボ・モンシロチョウの習性も知らせた。「カッパ池」ではアオサギの大きな足跡を発見しザリガニやカニと小魚も見ることができた。

山下裕子学校長始め、3年1組操木秀幸先生、2組松本誠先生(学年主任)、3組大西ちなみ先生との連携ができ、1クラス3名以上の保護者が一緒に歩いてくれたこともあり、無事に60分間の崖線歩きを終えた。



ネムノキの舟形の種
 (イラスト 高家博成)



淡紅色の花糸(写真)

☆葉は夜に閉じ、春には羽のようなふわふわした淡紅色の花糸を咲かせ、秋には舟形の種をぶら下げる。



年間を通して約17℃のわき水に手をいれる児童

当日、先生が用意してくれた児童たちのワークシート(樹木・湧水・ハケ項目)に、樹木の名前や湧水池で手を入れてみた感想などを書いたのをある児童が見せてくれた。

私たちも今回の講師派遣依頼、総合学習での環境学習を通して多くのことを学んだ。3年生によりわかりやすい言葉で樹木・湧水・ハケの何を伝えたいかである。



五小の敷地沿いに生えるススキに手を触れる児童

ハケには多くの自然が残されていて、そこにはたくさんの生き物がいること、湧水が湧き出るしくみや水の豊かさを実感し、その自然を大事にしていこうというメッセージは伝わったろうか！ チームメンバーが総力を尽くして総合学習授業に取り組み、共に学び合うことができたことに感謝したい。
 (チームリーダー 浅田多津子)

松本先生
寄稿

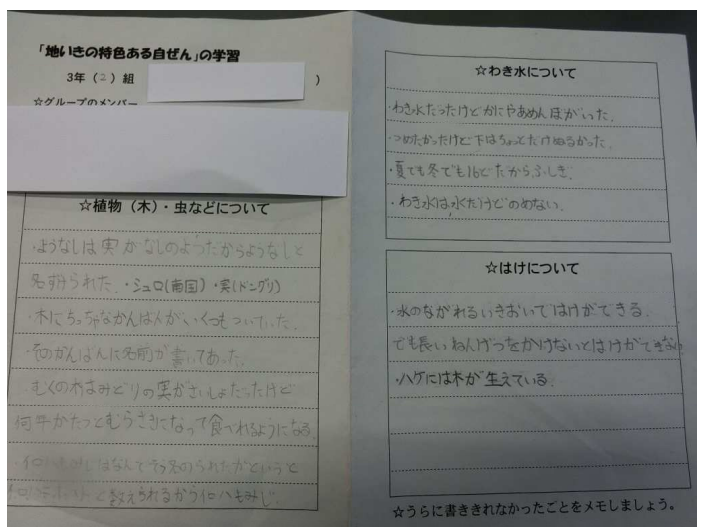
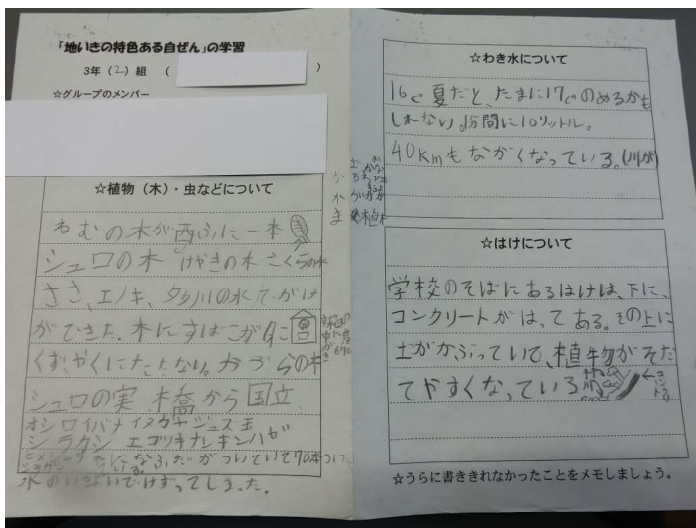
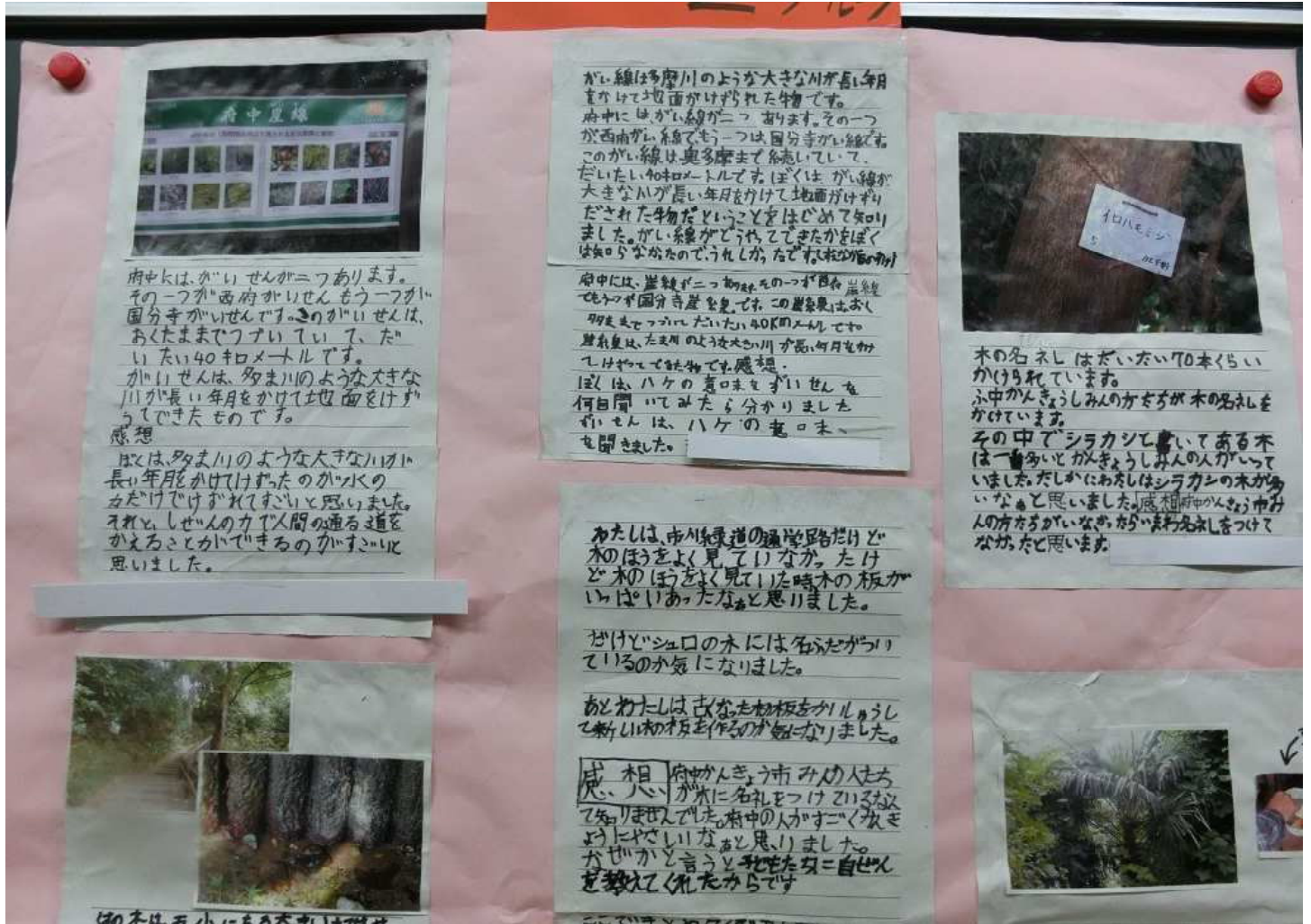
「地域の特色ある自然」の学習

昨年の10月5日(木)に総合的な学習の時間において、「地域の特色ある自然」の学習を行いました。

昨年度までは、「多摩川探検」ということで学習を進めていましたが、もっと学校の近くにある西府崖線で自然観察はできないだろうか、府中かんきょう市民の会の方に相談しました。その結果、快く相談に乗っていただき、度重なる検討を重ね、当日を迎えることができました。

西府崖線を府中かんきょう市民の会の方と探検して、「湧き水は山や森にしか出ないものだと思ってたが、こんなに身近にあるなんて知らなかった」や「巣箱などを作って、会の方が自然を大切にしていることを知れてよかった」など、子どもたちが新しい発見をすることができました。

教員一同も、今まで知らなかったことをたくさん教えていただき、大変勉強になりました。今後の指導に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。下記写真は児童の学習成果の一部です。(3年2組担任/松本 誠)



◎上記写真は松本先生から見せていただきました児童の学習成果のほんの一部です。教室に貼りつけていたものなどです。しかし、読者には文字が薄かったり、小さくて見づらいのではないかと思います。そのため、次号の春号(4月11日発行)では、先生の許可をえて、原文のままパソコン入力して何点かを掲載予定です。(編集部)

過去
2回開催

府中市小学校の環境学習会

NPO法人府中かんきょう市民の会(以後、当会)では、定款第5条(事業の種類)の第7項で、「小中高校における環境学習に関する講師派遣事業」を定めています。

当会で、過去に小学校で環境学習を実施したのは、平成18年度の2回のみでした。その1回目は平成18年5月12日に、「府中市立武蔵台小学校」の2・3年生、123名を対象に実施した「武蔵台公園の自然観察会」と、2回目の平成18年11月24日に新町にある「府中市立第六小学校」の5年生、141名を対象に実施した「環境学習会」でした。

特に、第六小学校の場合は、府中市からの要請で開催したもので、当校は平成18年度の府中市教育委員会研究協力校として、研究主題を「自ら学べる児童の育成(人との関わりを大切に)」と題して取り組んでおりました。

この取り組みの一環として公開事業・研究発表を行うこと



平成18年11月24日撮影

「一本の木」の授業風景／パソコン室



平成18年11月24日撮影

「府中の田んぼとお米ができるまで」の授業風景／5年1組教室

になり、5年生の取り組みとして「かがやきタイム」の事業で「子ども環境会議を開こう」の公開事業が開催されることになりました。副題は「身近な環境を学ぶ」で、「環境問題に詳しい方の話を聞く」コーナーがあり、府中市環境政策課経由で当会に協力要請がありました。

担当の先生方と相談の結果、当会の提案により次の5つのテーマで実施することになり、どのテーマを勉強するかは児童に選んでもらうことになりました。そのテーマは、①浅間山の自然②一本の木③府中の田んぼとお米ができるまで④きれいな空気を吸いたい⑤府中で観察される野鳥の紹介でした。いずれも45分間の授業で、各クラスとも約27名の児童が自ら希望するテーマを選びました。

学習会終了後、担当の先生をはじめ5年生の児童全員から、お礼や感想文が届き「身近な自然環境について大変よい勉強になった。児童も環境に関心をもつよい機会になった」とのコメントが寄せられました。(竹内 章)

第4回

歴史・自然遺産めぐり

「第4回歴史・自然遺産めぐり」が平成29年11月3日(金)の文化の日に開催された。天候は快晴。一般参加者のほかに西府チームメンバーと市民の会会員を含めて15名が参加。徒歩約5キロの行程だったが、全員が歩ききった。

コースは、JR府中本町駅前の「国司の館跡」からJR西府駅前の「御嶽塚古墳」までの約5キロである。所要時間は3時間20分。案内人は竹内章、サブが小西信生。コースの詳細は以下。

府中本町駅(9:00出発)→国司の館跡(武蔵国府跡・御殿地地区)→善明寺(鉄造阿弥陀如来坐像見学)→高安寺(山門・本堂・弁慶硯の井戸見学)→新田義貞像(分倍河原駅前)→高倉塚古墳→八雲神社(板碑見学)→本宿町緑地→カッパ池→市川緑道(あずまや前見学/11:35~11:50休憩)→西府町湧水→御嶽塚古墳→西府駅(12:20解散)

あずまや前でのパネル展示

府中市には歴史的遺産としての国司の館跡、徳川家康の御殿跡、古墳群、神社仏閣などが多々ある。このことは多くの人々にとって周知の事柄である。また、市の自



善明寺正門にて記念撮影

然遺産といってもよい水と緑に輝く西府崖線には、湧水と用水があり、さらには多数の樹木と生き物が棲息している。しかし、このことはあまり知られてない。そのような身近な歴史・自然遺産を市民に再認識していただくため、ここ4年ほど「歴史・自然遺産めぐり」を開催している。

善明寺(ぜんみょうじ)にある重要文化財の鉄造阿弥陀如来坐像(てつづくりあみだ)によらいざごうが見学できるのは年1回のこの日だけである。坐像は像高178cm、現存する鉄仏のなかで最大のものである。

途中のあずまや前では昨年の「わき水まつり」で使用したパネルを展示し、あずまやの椅子に座って休憩していただき、疲労回復のため参加者にあめ玉を配った。その後、崖線の樹木につけた名札(崖線全体で74本に取付け)を横目にしながら西府町湧水にむかった。湧水は東京の名湧水57選に選定され、当会が14年前から毎月湧水測定を行っている。水温は1年を通して約17℃である。

参加者は竹内案内人が作成した資料(18ページ)に見入り、皆さん疲労のなかにもさわやかな表情をして帰途についた。(葛西利武)

2017 田んぼの学校 **脱穀・モミすり／稲から米へ**

平成29年10月8日(日)、好天のもとで、東京農工大本町農場(武蔵府中税務署向かい)にて、「田んぼの学校」の今年度第4回目になる「脱穀・モミすり」を行ないました。

参加生徒数は29人、保護者29人、その他当会の会員、農工大の学生ボランティアなど25人で、合計83人でした。



開会

9月24日(日)に「稲刈り」し、ハサかけ(稲架掛け)して、2週間天日干した稲わらを、わら(藁)とモミ(粃)に分ける「脱穀」と、モミ(粃)をモミガラ(粃殻)と玄米(げんまい)とに分ける「モミすり(粃摺り)」を行ないました。

米作り以外では普段使わない言葉で、漢字も難しいため多くの場合はひらがなやカタカナで表記していますが、それぞれに漢字で読むと、多少意味が通じる感じです。



脱穀

さて、当日の「脱穀・モミすり」作業のメインは、千把扱き(センバコキ)を電動化したタイプの脱穀機と、電動のモミすり機各2台を大学から借りて行ないました。

しかし、この方法では同時に4人しか作業できず、田んぼの学校としての学習目的もあり、昔ながらの手作業での脱穀、モミすりも参加生徒全員が体験しました。



モミすり



手作業のモミすり

手作業の脱穀は、モミがついた稲わらを割りばしで挟んでこそぎ落とす方法と、牛乳パックの注ぎ口を使った方法の両方を体験しました。手作業のモミすりは、すり鉢と野球の軟球またはゴルフボールを使って優しくコロコロと行ないました。一升瓶を使った精米も一部体験しました。



モミすりで得た玄米

各家庭で育てたバケツ稲を食べられるようにするには、自宅にある道具を使って、食べられるようにする必要があり、昔の日本人がどれほどの手間をかけていたかを体験する上でも毎回行なっているものです。

今年は農工大のOB・OG9人の応援をいただき、わらはは脱穀で出たわらを使って、全員が「カタツムリ」のわら細工づくりにも挑戦しました。カタツムリはインテリアのアクセサリ一用ですが、テーブルにおいて、簡単な鍋敷きにも使えるものです。



わら細工カタツムリ

参加された保護者(母親)から、「昔は本当にこんな大変な作業をしていたのか信じられない」との感想があり、生徒からも、「手作業(での脱穀・モミすり)は大変だったけど、カタツムリができて楽しかった」との感想もありました。

今年の田んぼの学校「脱穀・モミすり」の成果は、玄米80kgでした。稲刈りした面積は約180㎡(10m×18m)でしたので、10アール(1,000㎡)当りに換算すると440kg程度で、東京都の予想平均を上回りました。

8月の長雨、稲刈り直前の台風もあり、無農薬での栽培としては、かなりの好成績だったでしょう。(小西信生)

2017
田んぼの学校

収穫祭・修了式に101名参加

収穫したお米の
オニギリはおいしい！

今年で14回目の開催となりました「田んぼの学校(府中市受託事業)」の収穫祭・修了式が盛大に行われました。

日時 平成29年11月5日(日) 9:00～13:30

会場 片町文化センター

参加者 総計 101名

生徒31名と保護者37名 68名

府中市市長、市役所環境政策課 5名

東京農工大学学生(耕地の会) 7名

府中かんきょう市民の会、ボランティア 21名



お祝いの言葉を述べる高野市長



修了証授与(右端 梅沢理事長)

水田皮膚炎(※)が、たまたま農工大本宿圃場で発生したことから、生徒さん(主に小学生)の感染防止対策を採るよう要請され、田植え、草取り時に田んぼに入らないで、まね事ですませました。その結果、3名が田んぼの学校を辞退されました。しかし、稲刈り・はさかけと脱穀・もみすりは従来通り実施し、さらにわら細工も加え、無事に予定した工程をすべて終え収穫祭・修了式を迎えました。

右側下表の通り、限られた時間内に各種のプログラムを行うため、事前の準備作業など全員で生徒さんや保護者も加わって行われました。

出席した生徒・保護者ともに、本会の催しを楽しんでいました。スタッフ、特に農工大の学生の会場設営、おにぎりづくり、折り紙、寸劇、子どもたちの遊び相手等々で支援してくれて、会の運営を円滑に盛り上げてくれました。

予定通り、高野市長が駆けつけてくれ、お祝いの言葉として、府中の農業・農地の大切さを訴えていました。農工大の先生が欠席で残念でしたが、稲の花がきれい、朝方2時間ぐらいしかモミが開いていないのは何故か(生徒さんが観察)、稲の草丈・分けつ数とモミの数との関連性はあるのかなどの質問もありました。

“収穫したお米のオニギリはおいしい” しかも自分たちが握ったものだと意識が美味しくさせるのでしょうか。子どもたち、ファミリーの嬉しそうな笑顔、そして、最後にカラーの集合写真を印刷した修了証を受け取る緊張した顔が印象的で、これからも続けたい気持ちにさせられました。



おにぎり作り中の食事風景

スケジュール・プログラム

8:50	スタッフ、農工大生、市役所職員 集合
9:30～10:00	受付 調理担当保護者集合(9:30)
9:00～10:00	会場設営、花づくり、わら細工品の展示
9:30～10:40	おにぎりづくり、生徒も手伝う
9:30～11:00	トン汁づくり
10:30～11:00	ビデオ放映、折り紙
11:00～	寸劇／農工大生
11:20～11:30	収穫祭・修了式 開会
11:40～	お祝いの言葉 梅沢理事長、高野市長
	食事(おにぎり、トン汁)
	感謝の声かけ／市役所 浦川課長補佐
12:00～12:30	ビデオ放映／渡辺 實
12:35	バケツ稲講評(成長グラフ展示)／竹田勇
12:45～13:00	田んぼクイズ解説、感想文、絵日記発表
13:00	修了証授与(裏には稲刈り時の集合カラー写真) 梅沢理事長
13:20	講評／市役所 前島課長
13:30	閉会／柿本委員長

竹田 勇 (田んぼの学校 副実行委員長)



農工大生の寸劇「米レンジャー」

※水田皮膚炎はセルカリアという鳥類住血吸虫が原因です。セルカリアは主にカモやサギ、ムクドリなどの鳥類に寄生し、腸壁静脈から血液を吸収します。日本の水田や河川には中間宿主貝(タニシ、ヒメモノアラガイ、ヒラマキモドキなど)が遊出することにより、人間の皮膚に侵入して炎症を引き起こし、下腿や手首、手の甲に赤い小さな皮疹が現れます。しかし、適切な治療を施せば約1週間から2週間で完治するので、恐れる病気ではありません。

第18回
バス見学会

築地場外市場と東京都環境科学研究所の見学

「府中かんきょう市民の会」主催の第18回バス見学会が、2017年11月10日(金)に39名の参加をえて開催されました。大國魂神社斜め前から9時に出発し、朝の天候は少し寒い感がありましたが、その後は大変暖かったです。

最初の目的地である築地(中央区)へとバスが走ります。間もなく車窓からは豊洲新市場、2020東京オリンピック・パラリンピックの施設、東京湾が見えました。車中ではビデオの放映や説明を聞きながら、渋滞もなくスムーズに築地につきました。

築地では2時間余のなかでの見学、買い物、食事です。築地場外市場は人、人、人であふれており、いろいろな国の言葉が耳に入ってきて、築地は世界の人にとってそんなにも魅力のある場所なのだと改めての実感です。

築地は外国人が多く、その活気に圧倒されましたがここでは多くの時間があったわけではないので、13時に次の見学地に行くためのバスが出発。やがて、バスのなかから最近ありました築地の火災跡が目にはいり、火災跡は骨組みだけを残してきれいに片づけられておりました。



築地場外市場のにぎわい。外国人が多い

次の目的地である東京都環境科学研究所(江東区新砂)に到着です。そこではまず職員から、施設の説明、研究の説明などの話を聞きました。その後、ダイオキシン類の分析と自動車の排ガス汚染を少なくするための実験、微小粒子状物質(PM2.5)の濃度低減等の研究、ヒートアイランド現象についての研究と分析の説明などを、資料とパワーポイントなどで受けました。



東京都環境科学研究所の前で記念写真

東京都はヒートアイランド(熱の島)現象のため、都心では100年前に比べて平均気温が約3℃上昇しているとか、コンクリートや、アスファルトが熱の上昇を招き、高層ビルが増えれば増えるほど温度は上昇することを学びました。

そのため「緑」と「土地」が必要となり、それらが温度上昇を抑え、気温を下げる効果があるとのこと。ヒートアイランドや排ガスについては、多くの人に知られている事柄です。排ガスを除去する装置が建物の屋上にあり、それも見学しました。

次に多摩川の水質についても、都の下水道局、環境局との地道な努力により、アンモニア性窒素が減ってきて、水質が復活しつつあるようです。

アンモニア性窒素があると、生き物は生きられないそうです。それがピーク時は約6.5mg/Lあり、昭和39年頃から平成元年頃は汚濁が著しい時代でした。しかし、その後減り続けて平成28年には0.05です。



シジミ販売品の見本

そのため水質改善がなされ、河口ではヤマトシジミや、エビ、アサリなどが復活したとの話です。多摩川のあり方も多くの人々の関心と行動、研究によりよみがえればよいと思います。多摩川の透明度は上がってきていて、それは下水道の普及によるものようですが、より一層水質が改善されるよう関心を持ちたいです。

質疑応答も丁寧にお答えくださり、時間がきたのでバスに乗り込み、一路帰途につきました。そして交通渋滞もなく、バスはスムーズに走り、16:20に大國魂神社につき、お土産のみかんをもって帰途につきました。(片山美智子)



各所の見学を終えて、最後の総合質疑応答

福島の子どもたちを招く
府中市民の会 主催

原発事故と福島の子どもたち

泉 千鶴子さん寄稿

あきる野市協同村での保養

2011年の原発事故以来、毎年夏休みに、福島の子どもたちを東京に招いて保養活動を行っています。昨年の8月4日から2泊3日で小学校3年生～6年生の子どもたち20人をあきる野市の協同村ひだまりファームに招いて保養キャンプを行いました。

例年は貸切バスを利用して子どもたちを送迎していましたが、今年は交通費の支出を少しでも抑えることができるようにと新幹線で送迎をしたところ、子どもたちは思った以上に、東北新幹線や東京の都会の様子にたいへん興味を持って移動を楽しんでいました。



ラジオ体操で
元気に一日が始まりました

武蔵五日市駅から車で10分程のところにある協同村は、夏でも朝晩はひんやりするほどの避暑地です。朝、原っぱでラジオ体操をしたり、協同村の前に流れる秋川では川遊びをしたり、川に生息する魚やカニなどを観察したりして、子どもたちは豊かな自然の中で過ごしました。ワークショップでは、敷地内にある竹藪から切り出した竹で、保育のお兄さんやお姉さんに手伝ってもらいながら、こどもたち自身が竹の節を切り、紙やすりで磨いて、流しそうめん用の竹筒を作りました。また、使わなくなったうちわを再利用して、絵を描いたり、マスキングテープを張ったり手作りのオリジナルうちわも作りました。

今回は5、6年生の参加が多かったのですが、これまで何度か参加しているお子さんもいれば、今年始めて参加したお子さんもいます。協同村に集まった20人が、自然の中でおもいきり遊び、楽しく、仲良く過ごした2泊3日でした。



秋川で川遊びをする子どもたち

福島の現在と私たちの活動

2011年に起きた福島第一原発の事故から6年半が経ち、福島では除染作業がほぼ終了し、避難指示の解除もされ

ています。しかし、避難地域だったところには野生動物が繁殖して住み着いてしまっていることや、買い物や医療など安心して暮らすための生活環境の整備はまだこれからの状態であることなどが報道されています。



古民家の前でみんな一緒に

福島から子どもたちを招く保養の活動は7回目になりました。今回の保養を企画するにあたって私たちはあらためて活動の継続について話し合いました。

たしかに、資金の面や活動を運営するメンバーの時間の確保などが難しくなっていますが、福島では保養を希望するお子さんたちが多くことや保養に参加する子どもたちは震災が起きた6年前には2歳から5歳の幼児だったことを考えて、第7回保養事業を行いたいという結論にいたりました。

福島の子どもたちとともに



④ 花火を楽しむ子どもたち
⑤ 流しそうめん用の竹筒づくり



今の小学生たちは、幼い時期に高い放射線量の影響を受け、外遊びを制限されながら過ごしてきた子どもたちです。除染が終わったとしても、野原を駆け回ったり、自然に触れながら外遊びをしたりすることができる保養の機会をこれからも提供していきたいと考えています。ささやかな活動ですが、子どもたちがこれからもずっと元気に健やかに成長してほしいと願っています。

この活動には毎年、生活クラブ東京から協同村の宿泊施設提供のご支援をいただいています。また、今年は環境分野での社会貢献活動で実績のあるLushジャパンの助成金のご支援もいただきました。第8回の2018年度も福島の子どもたちを応援するたくさんの皆さんと一緒に、保養活動を行いたいと考えています。

当会の竹田 勇さん

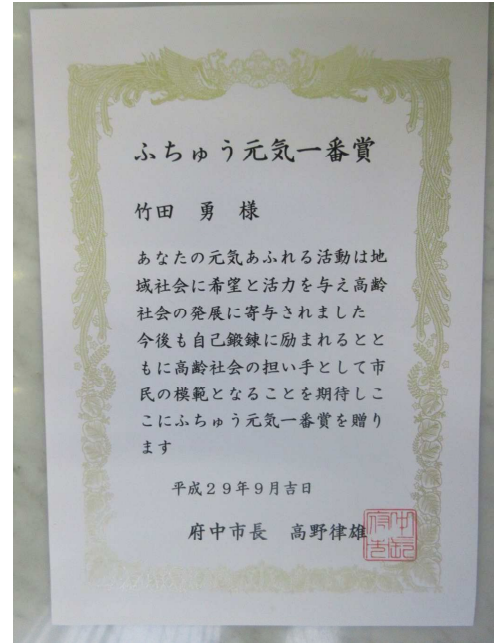
「ふちゅう元気一番賞」を受賞

ふちゅう元気一番賞 竹田 勇様

あなたの元気あふれる活動は地域社会に希望と活力を与え
高齢社会の発展に寄与されました
今後も自己鍛錬に励まれるとともに高齢社会の担い手として
市民の模範となることを期待しここにふちゅう元気一番賞を
贈ります

平成29年9月吉日

府中市長 高野 律雄



- ④表彰状に記された文章(原文のまま)
- ⑤高野市長より表彰状の授与
- ⑥表彰状の写真



上記表彰状を高野市長より授与された(写真④)。日時
は9月28日(木)16:00から、会場は市役所第4会議室。贈呈
式の前に、受賞者の活動を紹介する写真つきのパネル展
示が市役所1階の市民談話室で行われた(写真⑤)。

対象基準は、年齢が75歳以上、活動歴が5年以上、活動
内容が報酬を伴わず、推薦者は自他ともによしと「広報ふ
ちゅう」に出ていたのを妻がを見つけ、私にぴったりの賞だと
思えたので、市役所の高齢者支援課に伺い、準備作業し
て、梅沢理事長に推薦をお願いしたという次第である。

私は82歳になるが常日頃体を鍛えており、スポーツジム
に30年余り通い、しかも毎日のように、水泳・体操を行い、
自転車に乗り援農ボランティアにも欠かさず参加して、健
康体を自慢し、介護保険や健康保険関係庁から表彰され
てもいいのではないかと、介護予防の調査でも、私がコンサル
タントをしてもよいと思っていた。

メンタルのトレーニングでも、自分の好きな分野「農業」と
「環境」には勉強を怠らない。しかし、80を過ぎてから、「無
理をしない」、「モデライト」を配慮するようになってきた。

いつまでも元気で、活躍するためのノウハウを披露する
と約束したが、そんなこと言えるの？ あす病気になるかも
もしれないのにと思いながら3点ほど述べてみたい。

- ①バランスのよい食事、好き嫌いのない食事、野菜をたく
さんとする。私は援農ボランティア、市民農園、アグリカレッ
ジ等で野菜を得られる。
- ②適度な運動を持続すること。ほとんど毎日、スポーツジ
ムで体重、脈拍、血圧測定し、クロレラ入り牛乳を飲み、
体操、水泳をする。さらに自転車に乗るか歩くこと、農作
業をすること。
- ③人との接触・交流。私は人間が好きだ。ファミリーはもち
ろん、市民の会会員、援農仲間、同窓会。さらに、会社、
大学、同業技術者の会合にも出席し、近況を伝え合う。
今回の表彰が絶好の話題となる。最近は安立園の楽脳
麻雀、歌声喫茶in府中にも顔出ししている。(竹田 勇)



市役所1階市民談話室のパネル展示

編集人のつぶやき / 竹田さんは贈呈式で24人中1番目に表彰
された。なにごと1番というのは目立つものだ。竹田さんの「元
気一番賞」は衆目の一致するところであろう。編集人も80歳を超
えて竹田さんのように元気かは、?である。ちなみに当会にはあ
と2人受賞者がいる。他団体の推薦であるが、横山永望さんと設
楽厚子さんである。とにかく、当会には元気な人が多い。